

豆狸の寝言

副会長 三原幸二

次から次へとおぞましい事件が起こり、その残忍さと数の多さに驚かされました。いつの間にこのような情けない国になったのでしょうか。日常の生活でも、道を歩いていると平気で前を横切る、駅の改札口では少しでも先へ行かなければ損とばかりに押しのけてでも前へ行く。そんな傍若無人の人のために、ものの百メートルも歩かないうちにどれだけ嫌な思いをさせられるか知れません。

こういった事は、何が原因で起こってくるのでしょうか。

テレビの番組で或るコメンテーターが言っておりましたが、最近は怒らない大人が増え、怒られた事のない子供も増えてきている。こういった事がいろんな事件の背後にあるのではないかと。この意見には、確かにうなづける点があります。私の小さい時も、叱られるべき過ちをおかした時はまわりの大人からこっぴどく叱られ、大人は自分の子でなくても叱るべき時には透かさず叱る。以前は当たり前に行なわれていた事だったように思います。

さて、我々電材業界の場合ですが、叱られるべき事や、叱らなくてはならない事はないでしょうか。抜きさしならない所にいくまでに、手を打つべき事はないでしょうか。

昔から怒るよりも褒めるほうが難しいといわれております。今年はやさしいほうから始める時期ではないかと思うのですがいかがでしょうか。

(怒られるよりも恐い褒めごろし) 2007年執筆

